

ニセコ町

1323 中條 百絵

1. ニセコ町の概要と歴史

1.1 地名の由来

「ニセコ」はアイヌ語の「ニセイコアンベツ」(ニセイ・コ・アン・ベツ、峡谷・に向かう・ある・川)に由来するという説や、「ニセコアンヌプリ」(断崖にある山)に由来するという説がある。また、ニセコは日本でも数少ないカタカナの町であるが、これは明治以降、アイヌ語の地名を漢字化する流れの中でニセコは漢字をあてても定着しなかったためであるといわれているからである。

1.2 町章

町名の「ニ」「セ」「コ」を図案化したもので、「ニ」は雲を「セ」は山を、「コ」は流れを意味し、それぞれ青雲の志、不動の姿、不断の努力を表し、総体的に丸形は平和と結団を、山頂と山裾は飛躍と発展を、内側の白の部分は清らかな心と雪を象徴する。1968年5月15日に制定された。

図1 町章



出典：ニセコ町 HP

1.3 町木と町花と町鳥

ニセコ町の町木はシラカバで1979年4月4日に制定された。シラカバはカバノキ科の植物で落葉樹の一種である。樹皮が白いことからシラカバと呼ばれる。主に、長野県や北海道に多いため、それらの地域の市町村の木に指定する市町村が多い。日本の高原を代表する木の一つである。

図2 シラカバ



出典：ニセコ町 HP

図3 ラベンダー



出典：ニセコ町 HP

図4 アカゲラ



出典：ニセコ町 HP

町花はラベンダーで 1991 年 10 月 1 日に制定された。ラベンダーは、シソ科の背丈の低い常緑樹である。主に、ポパイ・ハーブティー・アロマセラピー・観賞用などに利用され、春に紫や白、ピンク色の花を咲かせる様々な品種がある。

町鳥はアカゲラで 1991 年 10 月 1 日に制定された。アカゲラは、動物界脊索動物門鳥綱キツツキ目キツツキ科アカゲラ属に分類される鳥類である。日本では北海道で亜種エゾアカゲラ、本州、四国で亜種アカゲラが周年生息する（留鳥）

1.4 歴史

1895 年本町初の移住者である清川孫太、岩上判七らが西富に入地する。1899 年、有島武が婿山本直良の名義で 90 万坪の貸下をうける。（有島農場）1900 年、吉川銀之丞、石狩幌向より小作人 4 戸と共に有島農場に入地する。1901 年、現在も隣の村である真狩村より分村独立する。真狩村字真狩別太の狩太をとり狩太村と名付けられ、現在の字元町に役場を設置する。1910 年、ニセコアン(ニセコ、曾我)一帯が倶知安村から狩太村に併合される。1914 年、有島武郎が佐村農場を買い取り第二有島農場となる。1924 年、有島農場解放記念碑建立。1950 年、羊蹄山が国立公園(支笏洞爺国立公園)に指定され、「ニセコ」が道立公園に指定される。同年、町制が施行される。1964 年、「狩太町」を「ニセコ町」に町名改称する。1972 年、ニセコアンヌプリ国際スキー場がオープンし、1982 年、東山スキー場がオープンした。1988 年にはスキー列車「ニセコエクスプレス」の運行が開始した。そして 2001 年、ニセコ町は開基 100 年を迎えた。

1.5 情報公開

ニセコ町では、1999 年 4 月より情報公開条例を施行している。ニセコ町が目指す「まちづくりの理念」を明らかにするための前文、町政情報の公開、出資団体や補助団体の情報公開の手続きなどが定められている。この条例の内容としては、町の理念を明らかにするため、前文を設けていること。手続きの簡略化。既公開町政情報は、開示情報として取扱うこと。請求は町民だけでなく誰でも行えること。非公開理由は書面に理由を付記するとともに非公開の理由を説明すること。期間経過によって公開できる町政情報はその時期を明示すること。不存在の情報も新たに文書を作って公開可能にすること。公務員の氏名は公開すること。出資法人及び補助団体の情報を公開すること。公開請求者の立場で情報の検索、利便を図ること。公開に係る手数料が無料なこと。付属機関の審議の公開をすることである。また、ニセコ町では、2000 年 8 月からファイリングシステムによる文書管理に着手している。それによって文書を探す無駄な時間を排除し、住民との情報共有を推進することができるのである。

2.ニセコ町の地理・気候

2.1 地理

ニセコ町は、東経 140 度 48 分北緯 42 度 52 分、面積 197,13km²道央の西部、後志管内のほぼ中央に位置し、北は倶知安町、東は真狩村、南は胆振支庁の豊浦町、西は蘭越町に接し、北に国立公園ニセコアンヌプリ(1,309m)、東に国立公園羊蹄山(1,898m)の山岳に囲まれた波状傾斜の多い丘陵盆地を形成している。町の中央には尻別川(2004年清流日本一)が流れ、これに昆布川、ニセコアンベツ川、真狩川などの中小河川が流入している。札幌市や千歳空港からは自家用車で約 120 分、小樽市からは自家用車約 90 分の圏内にある。

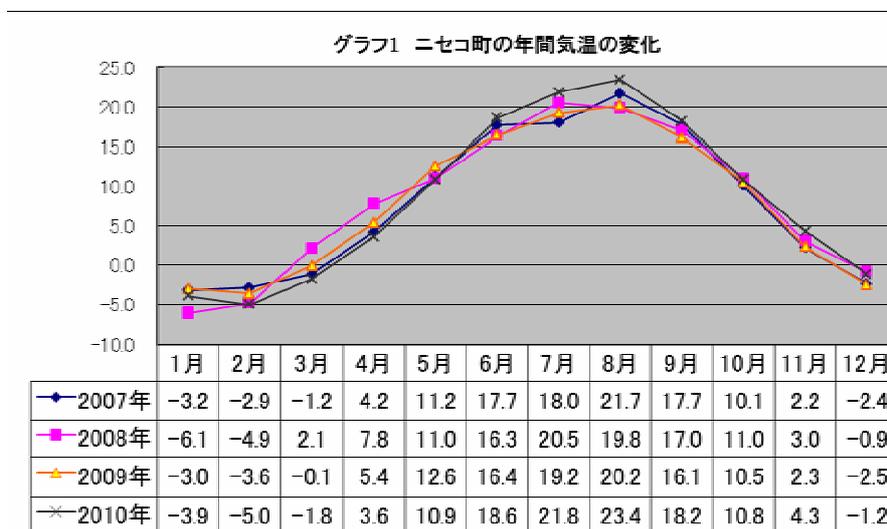
図 5 ニセコ町の位置



出典：ニセコ町 HP

2.2 気候

ニセコ町は内陸的気候を呈し、平均気温は、2007 年は 7.8 度、2008 年は 8.1 度、2009 年は 7.8 度、記録的猛暑となった 2010 年は 8.3 度である。グラフを見ても 2010 年の 6 月～9 月の気温は 2007 年～2010 年の 4 年間で一番高くなっている。ニセコ町は冬期の最深積雪が 200cm にも達することがある。また、12 月、1 月、2 月の平均気温は毎年氷点下に達している。



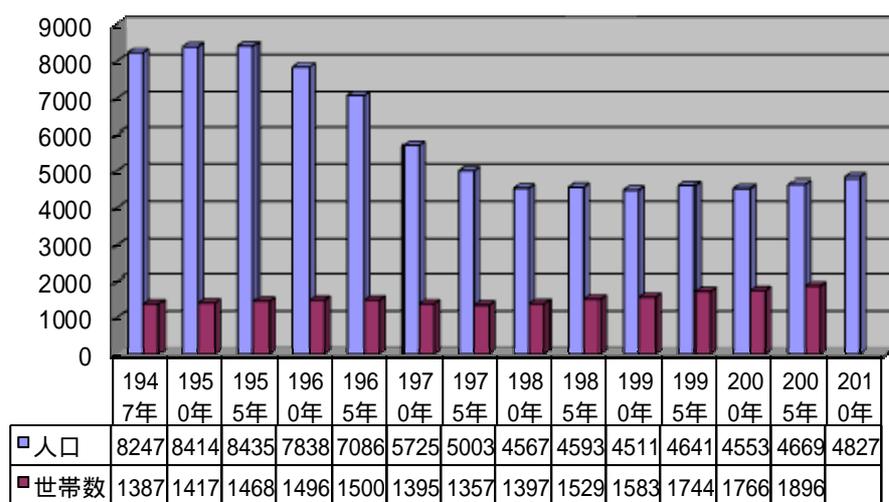
出典：ニセコ町 HP

3.ニセコ町の人口・世帯数推移

1920 年より 1940 年までは減少したが、戦後一時増加する。しかし、全国的に過疎化減少が顕著になり始めた 1960 年頃から再び減少を始め、1980 年には 1920 年の半分以下まで

落ち込んだ。以降、横ばい状態が続いていたが、2005～2010年の5年間では、多くの市町村が人口減少する中、2010年の調査では2005年の調査時より3.3%増加し、全道3番目の人口増加率となった。世帯数も1965年までは増加していたが1975年まで減少する。それからは増加し続けている。これはスキーやカヌーなどのアウトドアスポーツを開発して観光業に力をいれた結果、海外からの移住者が増加したためだと考える。

グラフ2 人口・世帯数推移



出典：ニセコ町 HP

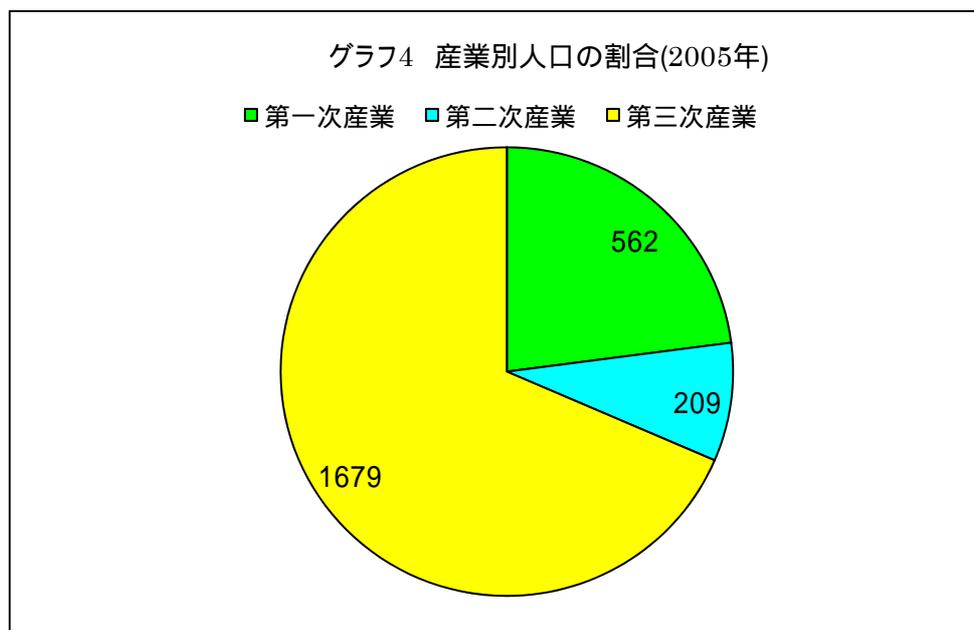


出典：ニセコ町 HP

4.ニセコ町の産業

4.1 産業別人口

ニセコ町の産業に携わっている人口は 2450 人。中でも一番多いのは第三次産業で 1679 人、全体の約 68.5%である。そのほとんどが観光業であり、これはスキーを中心としたニセコ町の観光が盛んであることを示している。次に多いのが第一次産業で 562 人、全体の約 22.9%で、そのほとんどは農業である。最後に第二次産業で 209 人、全体の約 8.5%である。

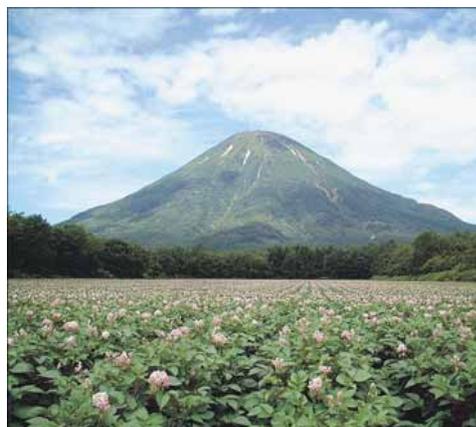


出典：ニセコ町 HP

4.2 農業

約 200 戸の農家が、2,000ha の田畑から 30 億円弱を生産している。内陸性気候による農耕期の温暖、地形、圃場の多様性などによって、収穫される作物は多岐にわたっている。主要作物は、ばれいしょ、水稲、メロン、アスパラ、トマト、ゆり根等。特にばれいしょ、メロン、アスパラは質・味がよいことで有名である。ニセコ町での作付け面積と出荷量が一番多いばれいしょは北海道での出荷量は十勝や網走よりも少ないものの、羊蹄山麓の恩恵を受けた良質なジャガイモとしてひと目置かれる存在である。

図 6 羊蹄山とばれいしょ

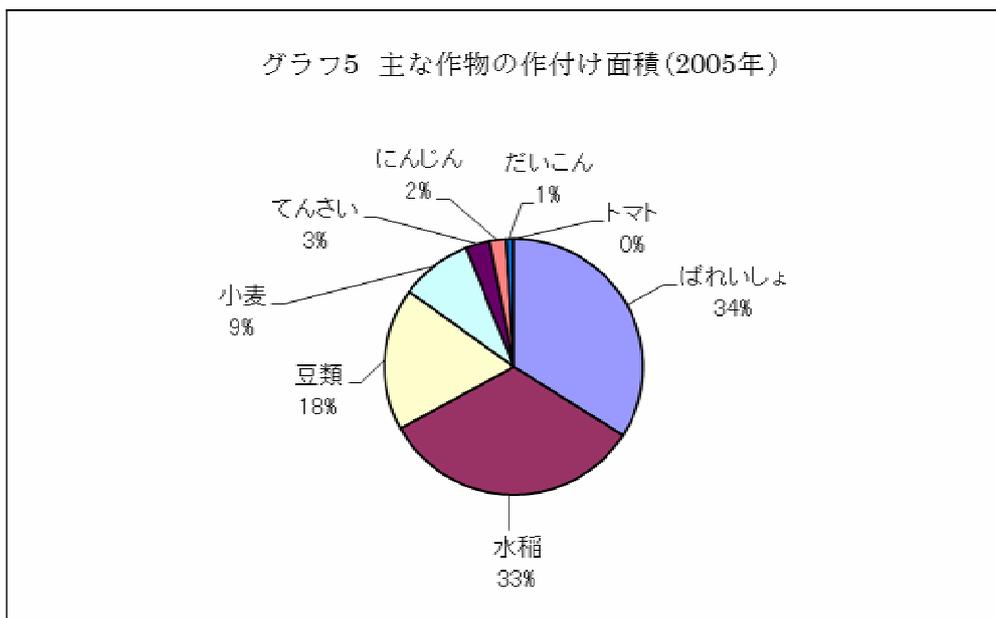


出典：農畜産業振興機構 HP

また、ニセコ町のばれいしょは1974年に「羊蹄山麓」地域として野菜指定産地の指定を受けた。

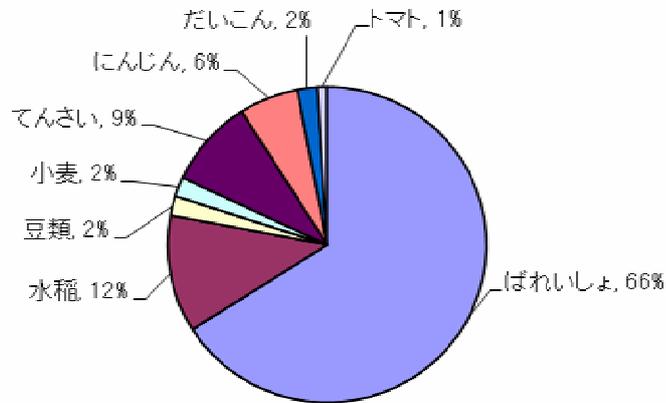
農業振興にあたっては、ニセコの特徴を生かし、収益性の向上、クリーン農業の推進、直売組織への支援などによる農業活性化などを進めている。また、農業・観光・商工などそれぞれの産業が持つ力を連携させることで、地域経済を循環させるため「ニセコ町産業連携プロジェクト」を発足させ、「食べ菜！遊び菜！ニセコ収穫祭」やニセコ産業連携ミーティング「Kira・綺羅トーク」などのイベントをはじめとする様々な取り組みを行っている。

主な作物の作付け面積の総面積は1138haで、ばれいしょは約386.9haで34%、水稲は約375.5haで33%、豆類は約204.8haで18%、小麦は約102.4haで9%、てんさいは約34.1haで3%、にんじんは約22.8haで2%、だいこんは約11.4haで1%、トマトは0haで0%である。主な作物の収穫量の総収穫量は17,532tで、ばれいしょは約11.6tで66%、水稲は約2.1tで12%、豆類は約0.4tで2%、小麦は約0.4tで2%、てんさいは約1.6tで9%、にんじんは約1.1tで6%、だいこんは約0.4tで2%、トマトは約0.2tで1%である。農業生産額の総生産額は22億9千万円で、野菜が6億4120万円で28%、米が4億1220万円で18%、いも類が3億8930万円で17%、その他が8億4730万円で37%である。



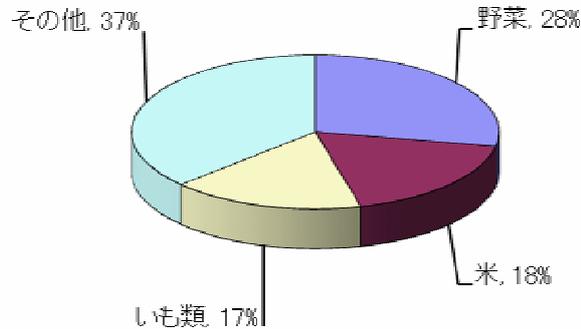
出典：ニセコ町 HP

グラフ6 主な作物の収穫量(2005年)



出典：ニセコ町 HP

グラフ7 農業産出額(2006年)



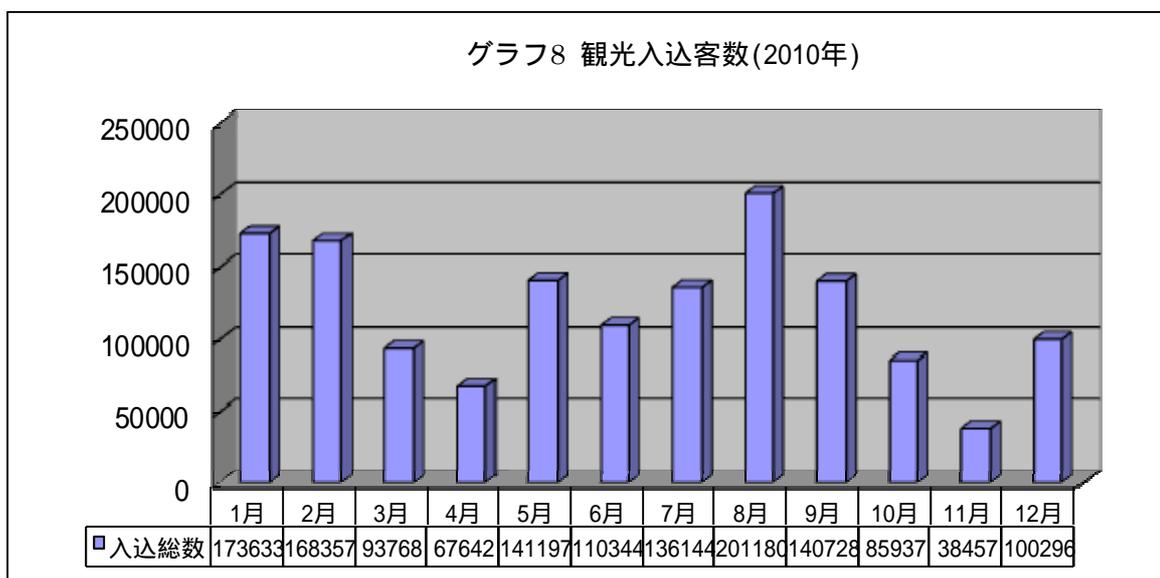
出典：ニセコ町 HP

5.観光

5.1 観光入込客数

グラフ7から、ニセコでの観光客入込数の特徴は、1月と8月にピークを持つ二峰型であるということがわかる。これは世界に誇る雪質と大規模なスキー場というスキーシーズンの冬と、登山、カヌー、ラフティング等の体験型アウトドアスポーツを楽しむことができる夏にニセコの魅力を感じる人が多いためだと考えられる。道内客 722,854 人、道外客

734,829 人、日帰り客 1,181,007 人、宿泊客,276,676 人、総入込客数 1,457,683 人である。



出典：ニセコ町 HP

5.2 観光スポット

5.2.1 ニセコユナイテッド

ニセコアンヌプリ山から裾野に広がる、ニセコ HANAZONO スキー場、ニセコグランヒラフスキー場、ニセコビレッジスキー場、ニセコアンプリ国際スキー場の4つの広大なスキー場の総称で、日本が世界に誇るビッグなスキーリゾートである。ニセコ連山の東端「ニセコアンヌプリ」に位置しており、ニセコ主峰「羊蹄山」を望む、自然豊かな場所である。最大の魅力は極上の雪質で、「シルキースノー」と形容されるほどきめ細やかである。

図7 ニセコユナイテッド



出典：ニセコユナイテッド HP

図8 ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」

5.2.2 ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」

JR ニセコ駅から徒歩1分、ニセコ駅すぐ前にある綺羅街道の途中にできた日帰り入浴温泉である。自然に囲まれ、異彩を放つ建物の中には心と体の疲れをときほぐすやすらぎが待っている。御影石の露天風呂がある洋風大浴場と、岩の露天風呂が



出典：ニセコ町 HP

ある和風大浴場という趣の異なるふたつの大浴場を、日替わりで男湯・女湯を交代して利用することができる。

5.2.3 ニセコビュープラザ直売会

道の駅ニセコビュープラザの特産品直売施設（農産物直売所およびショップコーナー）の出店者により組織された任意団体である。直売施設の運営を円滑に行ない、地域経済の活性化をはかることを目的とする。出店者は、全員ニセコ町民で、直売会の規約により、農産物直売所に出品する品物はニセコのもものと定められている。役員会で承諾されたもののみが出品でき、このような取り組みによって安心・安全な商品が提供されている。

図9 ニセコビュープラザ直売会



出典：ニセコ町 HP

5.2.4 有島記念館

ニセコ町は有島武郎ゆかりの地である。大正6年、「新小説」に発表され、有島文学の文壇での地位を確立した作品「カインの末裔」は、この地を舞台にしたもので、代表作品の一つ「生まれ出づる悩み」や、随想「秋」もこの地で書かれたものである。有島武郎生誕110年を記念して新しく誕生した有島記念公園がある。2haの敷地のなかには「一房の葡萄」、「星座」、「生まれいづる悩み」など、有島武郎の作品にちなんだ花時計などが配置されている。また、有島カルチャーセンター・有島アートギャラリーでは、絵画・等工芸などの個展も開かれており、身近で優れた作品に触れながら有島作品を知り、ゆっくりと味わうことができるユニークな『文学と芸術の散歩道』である。

図10 有島記念館



出典：ニセコ町 HP

参考 HP

- ・ニセコ町 HP(<http://www.town.niseko.lg.jp/>)
- ・農林水産省 HP
(<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-01/395/agriculture.html>)
- ・農畜産業振興機構 HP(<http://www.alic.go.jp/index.html>)
- ・ニセコユナイテッド(<http://www.niseko.ne.jp/niseko/index.html>)